

第6回生息環境専門部会 開催結果概要



タンチョウの生息状況と環境調査結果を踏まえ、
今後の取組を検討！

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 第6回 生息環境専門部会

■開催日時：令和5年1月18日(水) 15:00～17:00

■開催場所：札幌開発建設部 本庁舎 4階 1号会議室

■出席者：計15名（うち委員9名）



主な意見



正富委員

遊水地で生まれたタンチョウも、オスの場合は生まれた場所近くで繁殖しようとする傾向を示す。現状では遊水地以外に繁殖に適した湿地が少ないと思われるので、石狩川河口や流域湖沼群の湿地も含めて生態系ネットワークの形成・発展を期待したい。



舞鶴遊水地南側の景観



矢部委員

雨水中心の初期湛水池は湿原に遷移する可能性がある。千歳川遊水地群の各遊水地での湿地復元や、市町村に理解を求めていく方向になるとよい。



藤巻委員

草原性鳥類の生息環境が近年減少しており、採草地は草原を維持するのが望ましい。ガンは勇払平野・石狩平野を広く利用しており、一体的に考える必要がある。



赤坂委員



アライグマわな設置を4月の早期に行い、体重等の記録を取るのが望ましい。



柿沼委員

樹林化抑制は、草本繁茂による抑制、早期の樹木伐採等、寒地土研の研究成果も参考にされたい。



中村座長

石狩川流域で生態系ネットワークを形成する場合、シンボル種はタンチョウだけでなく地域の要望等を上手く重ね合わせる必要がある。

総括



中村座長

- 行政機関等が協力し、社会経済に結びつく出口を描けると良い。生きものと共生する農業に付加価値がつく関係が構築できると良い。
- 千歳川流域、石狩川流域の自治体が持っている考えも再度整理しなければならない。全体のビジョンを描く協議会と、各地域の取組が連携していけると良い。

長沼町

- 長沼町は、皆さんの力を借りながら、特に民間企業等が加わることで、取組がさらに注目されて、広がっていくことを期待しており、石狩川の取組にも是非参加したい。

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

第6回生息環境専門部会 議事要旨

〔日 時〕：令和5年1月18日（水） 15:00～17:00

〔場 所〕：札幌開発建設部 本庁舎4階 1号会議室

〔出席者〕：計15名（うち委員9名）

（1）道央圏におけるタンチョウの飛来・繁殖状況について

- 舞鶴遊水地でこれまでに生まれた幼鳥がオスの場合は、舞鶴遊水地周辺で繁殖する傾向を示す。
- タンチョウは比較的千歳川遊水地郡周辺に現れているので、遊水地以外に繁殖に適した湿地は道央圏に少ないのかもしれない。
- 8月の大雨時は親鳥がヒナを連れて遊水地外へ出て、身を隠せるほどにイネの育った水田でねぐらをとったが、ヒナがまだ飛べない状態と大雨のタイミングが重なった特異的な条件によるもの。

（2）舞鶴遊水地における令和4年度の環境調査結果と令和5年度の調査予定について

- 舞鶴遊水地でヤナギ林化の可能性があるのは北側の採草地。初期湛水池は止水環境で泥炭がたまっていく。侵入する樹種としてはハンノキ中心になると想定される。
- 地点ごとの電気伝導率の違いは、植物による栄養塩類の吸収よりも雨水希釈の影響が大きい可能性がある。雨水中心では湿原に遷移する可能性がある。
- 草索性鳥類の生息環境が近年減少しており、採草地は草原を維持するのが望ましい。
- 長沼町や酪農家の意見も聞く必要があるが、治水安全度向上や維持管理費削減もできるので、好機があれば採草地の地盤を下げることも選択肢として検討いただきたい。
- 大河川の高水敷では草本の繁茂で樹林化が防げること、侵入樹木は早期伐採する方が維持管理費を低く抑えられること、伐採時期は展葉直後が良いこと等が判っている。
- アライグマのわな設置を4月の早期に行い、性別や体重等の記録を取るのが望ましい。

（3）石狩川流域生態系ネットワークの推進に向けた検討体制について

- 指標種はタンチョウだけでなく地域の要望等を上手く重ね合わせて検討していく必要がある。
- 自治体や民間所有になっている場所もあるかと思うが、石狩川河口域や流域の湖沼周辺の湿地なども含めて、石狩川流域生態系ネットワークの発展を期待する。
- ガンは勇払平野・石狩平野を広く利用しており、一体的に考える必要がある。
- 千歳川遊水地群の各遊水地で舞鶴遊水地と同様にゾーニングをして湿地を復元することが至近の目標になるのではないか。そのために市町村に理解を求めていく方向になるとよい。
- 繁殖期のタンチョウが水田や畑を主要な採食環境として利用する場合、被害の発生可能性や被害の程度、被害補償の可否等、データを集めて対応を考える心構えが必要。
- 水田に入ったタンチョウを追い払って共存の境を学習させることも必要だが、行き先となる採食環境を確保し、ネットワークを形成することが重要。

【総括】

- 各行政機関等も協力して取り組み、社会経済に結びつく出口を描けると良い。本指摘のあった水田にタンチョウが入った問題も、先進事例のように安心安全な食物として付加価値がつく良好な関係が構築できると良い。
- 千歳川流域、石狩川流域の自治体が持っている考えも再度整理しなければならない。全体のビジョンを描く協議会と、各地域の取組が連携していけると良い。
- 長沼町は、皆さんの力を借りながら、特に民間企業等が加わることで、取組がさらに注目されて、広がっていくことを期待しており、石狩川流域での取組にも是非参加したい。